

# 水産技術改良普及事業

## 趣旨目的

物価統制政策によつて保たれていた漁業経済も、統制撤廃の昭和26年頃より、とみに漁獲量も減退し衰微の徴候が現われ初め、加うるに奪承晩ラインによる日本漁船の締出に沿岸漁業者は一入塗炭の苦しみをなめている。

この苦しみは、他人事ではない。自分自らがあらゆる工夫と研究を重ね、漁獲能率増進に努めてこそ、漁業経済の均衡は保たれよう。

早い水産庁においては、昭和28年度より水産技術改良普及策として先達漁船制度並に水産技術改良普及員の設置などに面費補助を支出して沿岸漁業特に零細漁業の技術改良に拍車をかけている。よつて本県（水産試験場）においてもこの線にそうべく漁業技術改良普及に努力を傾注している。

## 事業経過

昭和29年度以降実施した事業の概要を記述すれば次の通りで技術改良効果の曙光がみられるに至つたことは聊か意を強うする次第である。

### (A) 先達漁船関係

年度	貸与漁具・機械名	貸与研究グループ	研究課題	成績	備 考
昭 29	とびうお 浮敷網 (ナイロン 改良網)	西之表漁協関係 四組合	○綿網との比較 ○科学機械併用 ○研究発表会	良好	水産庁主催才二回技術改良普及研究発表会において二位に当選した
29	にべ刺網 (ナイロン 改良網)	高山漁協関係 一組合	全 上	良好	
30	とびうお 浮敷網	西之表漁協関係 宮之浦漁協関係 一組合	全 上	良好	29年度の成績良好により削減されて増加
30	綿連網 (ナイロン 改良網)	西之表漁協関係 一組合	全 上		
30	きびなご刺網 (ナイロン 改良網)	西之表漁協関係 二組合	全 上	良好	
30	漁物一本釣具 一式漁探ノ台	串木野漁協関係 一組合	全 上	良好	
31	きびなご刺網 (ナイロン改良網)	里漁協関係 一組合			31年3月貸与
31	魚群探知機 (2台)	一瀬漁協関係 二組合	とびうお 魚群探査		"

(B) 水産機械の技術指導関係

(イ) 電気機器取扱講習会

場所	日時	講習項目	講師	出席人員	備考
指宿漁協	自 昭31.2.28 至 昭31.2.29	○電気の原理 ○機械取扱注意 ○故障診断 ○質疑応答	日本無線KK 二級無線士 長谷川藩尊	29名	随時講習会実施 才要望が多い

(ロ) 漁船発動機関係取扱講習会

場所	日時	講習項目	講師	出席人員	備考
喜入漁協	自 3/3 至 3/3	○発動機関の原理 ○機関取扱注意 ○故障診断 ○質疑応答	鹿児島大学水産学部 かごしま丸機関長 北村千里	19名	全上

メジカつり漁業試験

(趣旨)

新規事業として種子島近海で試験操業を行った。この地方の漁民は、トビ延縄、キビ刺縄、サバー本釣、瀬魚漁業と共に各時期順次切替えて操業するが、漁法が未だ曳縄程度のもので、果外船に比較して相当立ちおくられている。今年に入り果外船同様ホロ板、撒餌にて釣獲しようとする気運が高まっている。当场沿岸漁業部として初めての試みであったので効果は場らなかつたが、試験結果は次のとおりである。

- (1) 期 日 昭和31年1月27日～2月9日
- (2) 使用船 試験船 おほとり 19.75ton, 50HP
- (3) 従事者 調査員 肥後、船員 7名
- (4) 餌 料 キビナゴ 5箱
- (5) 使用漁具  
釣 竿 : コサン竹 長さ1.5k~2k 元口3~4寸 末口4~5分  
釣 糸 : ナイロン7厘 釣針までの長さは釣竿より稍短いもの  
釣 針 : 擬餌針 (別図の通り)  
ホロ板 : 材 料 桐 材  
型 別図の通り
- (6) 漁獲量 めじか 97×900枚